



# 三丁目の笑顔

# なん・ぽん・さん

南 本 三

南本町三丁目景観づくりの会  
2018年9月発行



タナカ ホルツン 木エアート



滝本菓子店 ヤコーパン

- 三丁目のヒト  
滝本清さん
- 三丁目のワザ  
「タナカホルツン」  
ぬくもりの  
木エアート
- 三丁目のコト  
今年も  
始まりました!  
「のれん染め」
- 最賢寺の  
「大イチョウ」の  
高さは?



# 三丁目のヒト

ご近所この人・ご存じでしたか「なるほど！」な人生



## ●創業85年の老舗「滝本菓子店」

滝本菓子店は昭和8年に先代が開店し、今年で創業85年の老舗菓子店です。

今回お話を伺った滝本清さんは、高校を卒業後2年ほど名古屋や高田で修行の後、昭和41年より先代とともにお店を繁栄させ、昭和44年からは奥様と二人三脚で45年以上お店を切り盛りしてこられました。



現在の滝本菓子店

滝本菓子店といえば、ブッセに餡とクリームを挟んだお菓子の「チャーム」昭和51年頃洋菓子の要素も取り入れ、滝本さんが開発しました。

最初は「チャーム」ではなく「ロマンス」という別の名前であったり、挟んでいる餡もジャムであったりチーズクリームであったり、試行錯誤の結果、現在の人気商品になっているそうです。

お菓子は今も全て手作りです。引出物などは納期も決まっていますから、400個ものチャームの依頼があった時は、奥様とお二人で夜通しの作業をされたそうです。身体一つで長年にわたってお菓子作りを続けてこられた大変さを感じました。



滝本 清  
(たきもと きよし)  
滝本菓子店 店主

## ●今も変わらない手作りの味

以前は慶事での和菓子の依頼がとても多く、県外からの依頼もあったそうです。一つ一つ木型を使って家紋や縁起の良い図柄を形づくる事はとても難しく大変との事。

時代が変わり、依頼は少なくなったようですが、いろいろな注文に対応できる様、今も木型は大切に保管されています。



大切に使い続けられている木型

木型の職人さんも少なくなり、今ではとても貴重なものとなっています。また、お店の奥には、30年以上使用しているという大きなオーブンがあり、チャームをはじめたくさんのお菓子を焼いてきましたが、これまで大きな故障はなかったそうです。この様に、機械や道具をいかに大切にされてきたか「気持ち」が伝わってきます。

## ●人柄あつての「おいしいお店」

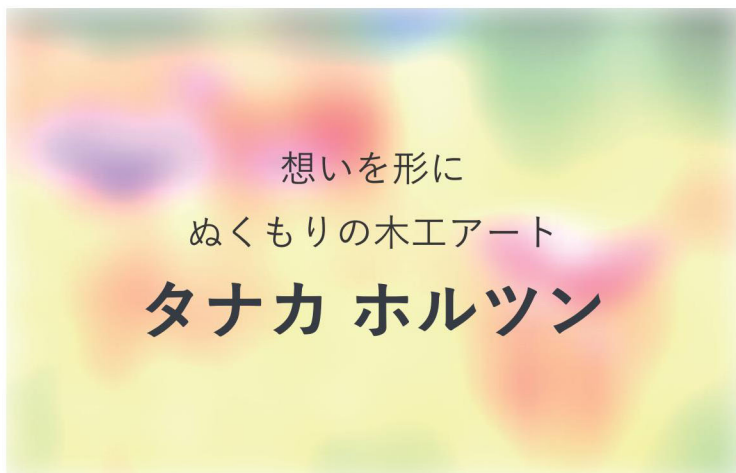
今は、お店の情報が雑誌や新聞、インターネットなどに掲載されることが多くなりましたが、大手メーカーのようなオートメーション化された製品とは違い、「チャーム」や「ヤコーパン」は、全て手作りで心がこもっています。

そして遠方から来られたり、海外にいる家族へ送るために買い求めに来る方もおられるそうで、大変恐縮されておられました。そういう人柄もまた「おいしいお店」に繋がっているのではないかと感じました。



# 三丁目のワザ

ご近所この技・ご存じでしたか「なるほど！」な技術



## ●大正時代から続く木工の技術

南本町三丁目雁木通りの中ほどにあるお店「タナカホルツン」さん皆さんご存知ですよね…。年配の方には「田中まげし屋」さんの呼び名の方が通りがいいかもしれませんね。大正時代に先々代が修行から戻り商売を始められ、先代は神棚作りで上越市のマイスターに認定されました。

タナカホルツンさんの情報は  
LINE@タイムラインで  
情報を配信中です。  
「@gangi\_in\_takada」で  
LINE ID検索してみてください。  
PCからも見られます。



## ●オリジナルの木工アート

そして、現在の三代目「田中一成」さんは時代の変化にマッチした木工アートを全国に発信しています。木材にレーザー加工でお客様の望まれる写真や絵を見事に写したり、糸のこ盤で思いのままに木材をカットして切文字やオリジナルの木製雑貨を作り上げていきます。誕生日のお祝いや記念の品に世界に一つだけしか存在しないあなただけのオリジナル品を作ってみてはいかがでしょうか…

まずは「こんなの作れますか？」と聞いてみてください…きっとその一言が店主の創作意欲に火をつけるはずですよ。

好き嫌いの激しい店主ですが…(汗)

# 三丁目のコト

今年も始まりました！「のれん染め」



只今、染色中！

「景観づくりの会」では、昨年引き続き、まちなみを考える契機として雁木通りに「のれん掛け」を行います。秋の本番に向けて、7月28(土)には「のれん染め」を行いました。町内の婦人会や上越総合技術高校の生徒さんが参加し、わきあいあいと楽しく、約60枚の布を紺と深緑に染めました。10月には、絵付けとのれん掛けのワークショップを予定しています。みなさん是非ご参加ください。(詳しくは後日お知らせします。)



# 最賢寺『大イチョウ』の高さを知っていますか？

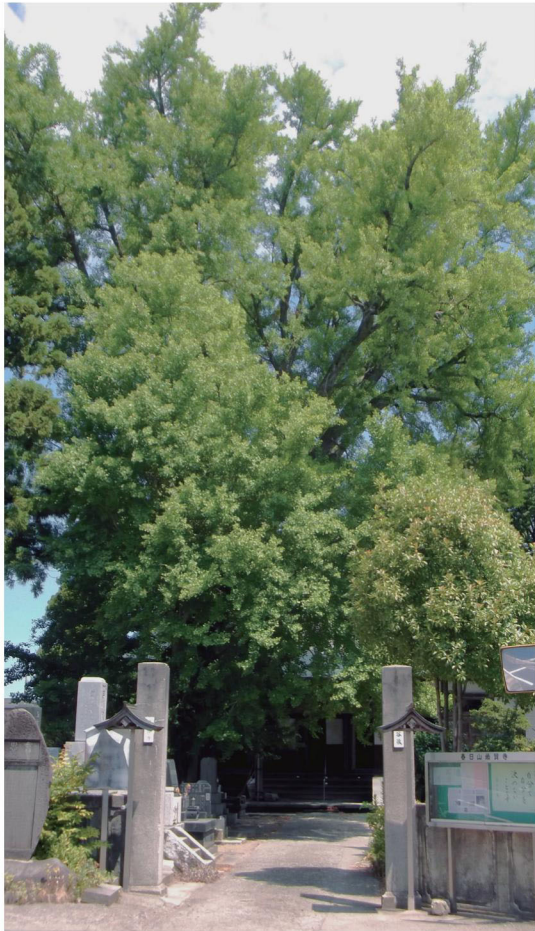
上越総合技術高校生徒さんによる課題研究報告



## ●最賢寺副住職 金子さんに聞いてみました

(上越総合技術高校 以下(上))皆さんこんにちは、上越総合技術高校 地域交流班の平井、中村、松木です。私たちは学校の課題研究で、2年前の先輩は「てくてくMAP」去年の先輩は町屋DIYをやっていました。今回は最賢寺のイチョウの木について副住職の金子さんにインタビューしました。

金子さんよろしくおねがいします。早速ですが、最賢寺といえばイチョウの木だと思いますが何でこんなところに植えられているのですか？



最賢寺の大銀杏



左から 松木・中村・平井

(最賢寺 副住職 金子氏 以下(金))イチョウの葉っぱは燃えにくく、火除けのために植えられたのではないかと、いわれています。

最賢寺が火事に遭ったと聞いたりしないのは、このおかげなのかもしれませんね。

葉が落ちると雪が降ると地域の方に言われているんだよ。

(上)へえ～、初めて知りました。ところで、このイチョウの木は何mあるんですか？

(金)きちんと測ったことはないけれど、35m以上はあるんじゃないかな。幅は5m位はありそうだね。

(上)35mもあるんですか！そこら辺の電柱の3倍くらいですね。幅も大きいし、私たち3人で幹の周りを手をつないでみたけど届かなかったね。

(上)このイチョウの木の見ごろはいつですか？

(金)11月中旬頃が見ごろなのでよかったら来てみてくださいね。

このインタビュー後に、実際に三角定規とメジャーを使い三角形の比を利用して最賢寺のイチョウの木を図ってみたところ、37mあることがわかりました。

## 編集後記

本年も、上越市と共同で「南本町三丁目景観まちづくり」の活動が行われています。この「なん・ぽん・さん」発行の他にも「のれん飾り」や、雁木通りの建築物の景観を見直す「修景」活動があり、本年からトキワインテリアさんの旧「バウハウス」と石川酒屋さんをモデルケースとして見直します。是非皆様も関心をお持ちいただき、ご意見・ご感想をお寄せ下さい。 町内会長 大塚 誠

## 「なん・ぽん・さん」 スタッフ大募集！

あなたも「なん・ぽん・さん」を作りましょう。

025-524-8735 (町内会事務所)

●三丁目の、伝説・歴史・オモシロ情報もぜひ、お教え下さい。